

教 員 個 人 調 書

教 育 研 究 業 績 書

2023 年 5 月 11 日

氏名

永田得郎

㊞

研 究 分 野		研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
作業療法学、生活支援技術、		作業療法学、生活支援技術、	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項			
事項		年	概 要
1 教育方法の実践例			
臨床経験の説明		2020	学生が臨床現場を想像しやすいように、動画教材も使用しながら説明した
2 作成した教科書、教材			
反転授業の実施		2020	動画教材を作成して予習、授業では演習的に動く反転授業を導入した
3 教育上の能力に関する大学等の評価			
4 実務の経験を有する者についての 特記事項			
三重県作業療法士会の新人教育の講師を担当		2021～	老年期の基礎知識、生活期・終末期の作業療法を担当
臨床実習指導者講習会の講師を担当		2021～	厚生労働省
第 2 回理学療法士作業療法士専任教員養成講習会修了		2023	厚生労働省
5 その他			
職 務 上 の 実 績 に 関 す る 事 項			
事項		年月日	概 要
1 資格、免許			
作業療法士免許		2007	厚生労働省
福祉住環境コーディネーター 2 級		2009	東京商工会議所
訪問リハビリテーション実務者研修修了		2014	一般財団法人訪問リハビリテーション振興財団
生活行為向上マネジメント研修修了		2015	日本作業療法士
作業療法士臨床実習指導研修修了		2019	日本作業療法士
認定作業療法士		2020	日本作業療法士
2 特許等			
3 実務の経験を有する者についての 特記事項			
岐阜勤労者医療協会 みどり病院リハビリテーション科		2007 年 4 月～ 2010 年 1 月	
医療法人社団豊正会 大垣中央病院リハビリテーション科		2010 年 11 月 ～2017 年 3 月	
合同会社エバーファイン		2017 年 4 月～ 2020 年 3 月	
専門学校ユマニテク医療福祉大学校		2020 年 4 月～	
西濃 OT 勉強会の立ち上げ		2014～	岐阜県西濃地区の作業療法士有志 5 名で定期勉強会を創立
大垣中央病院市民公開講座の講師を担当		2014	認知症予防について担当
岐阜県作業療法士会		2014～2016	岐阜県作業療法士会 理事(一般向け広報部部長)
		2016～2017	岐阜県作業療法士会 部局委員
三重県作業療法士会		2021～	三重県作業療法士 部局委員
		2021～2023	第 21 回東海北陸作業療法学会 学術局プログラム部部長

	2022	第 21 回東海北陸作業療法学会査読委員		
	2022	第 32 回三重県作業療法学会 実行委員		
介護ロボットニーズ・シーズ連携協調協議会	2018～2019	三重県協議会委員		
しおはま在宅介護サービスセンター主催「はつらつ健康塾」講師	2020～	転倒予防について担当		
桑名市地域ケア会議アドバイザー	2020～	三重県桑名市		
四日市市地域ケア会議アドバイザー	2020～	三重県四日市市		
4 その他				
研 究 業 績 等 に 関 す る 事 項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	
(著書)				
(学術論文)				
(その他)				
1. 肩の機能改善が移乗自立につながった一症例(査読付き)	単著	2013 年	第 17 回岐阜県作業療法学会(高山市)	下肢疾患患者の移乗動作に対し、可動域制限があった両肩の治療が移乗動作自立に至った方の考察発表を行った。
2. 右膝痛の患者に生活行為向上マネジメントを用いて洗濯動作に介入した一事例(査読付き)	単著	2018 年 3 月	第 29 回三重県作業療法学会(津市)	右膝関節通を呈した患者に生活行為向上マネジメントを用いて洗濯行為に介入した事例報告を行った。希望の洗濯行為を再獲得するために、慢性炎症を繰り返す右膝関節痛に対して日誌を用いた疾患の知識を獲得する具体的方法と患者教育の重要性を発表した。
3. 訪問型サービスCから介入した一事例(査読付き)	単著	2020 年 2～3 月	第 31 回三重県作業療法学会(オンライン)	介護予防・日常生活支援総合事業における訪問型サービスCの事例報告を行った。四つ這い移動に対する自主トレ指導や屋外段差の住宅改修を経て、移動自立、デイサービス利用に至るまでの7回の訪問の内容と訪問型サービスCにおける作業療法士の重要性を発表した
4. 排泄週間の獲得から日中トイレ動作見守りに移行した一事例(査読付き)	単著	2022 年 11 月	第 21 回東海北陸作業療法学会(オンライン)	失禁を呈する認知機能低下を認めた患者の訪問リハの事例報告を行った。尿意が曖昧であり、日中オムツ使用の患者に対して、定時トイレ誘導の家族連携から見守りレベルに至るまでの内容と生活意欲についての重要性を発表した。